

## 第 5 回演習資料

新領域創成科学研究科 人間環境学専攻  
橋本 学

### 1. はじめに

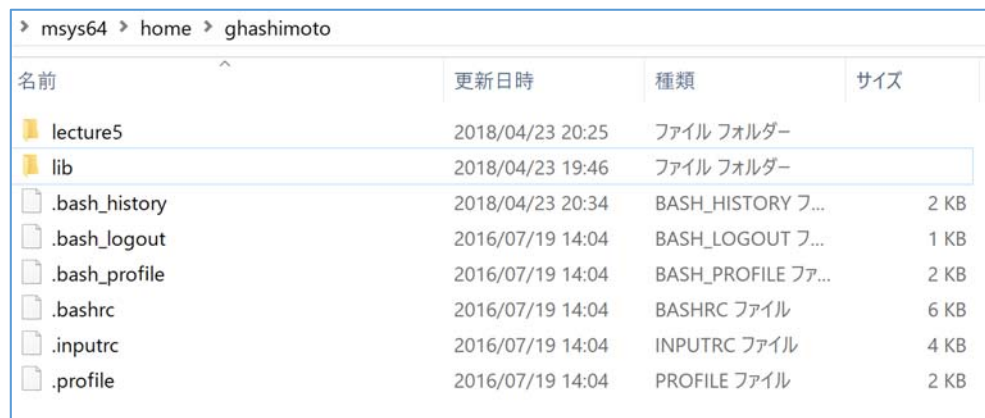
作成したプログラムが意図したように動作することをコード検証 (Code Verification) といいます。厳密解がある問題を解析し、計算で得られた近似値と厳密値を比較することによって、コード検証を行うことができます。

有限要素解析では、有限要素を細かく分割していくと、近似値はある値に近づいていきます。厳密解がある問題に対して、十分に細かくした有限要素解析で得られた近似値は厳密値であると考えることができます。有限要素を細かくしていくと、近似値と厳密値の差 (誤差) がどのような値となるのかを検証することを計算検証 (Calculation Verification) または精度検証 (Accuracy Verification) といいます。

第 5 回では、単純引張変形、単純せん断変形、単純支持梁の曲げ変形を解析し、計算結果と厳密解を比較します。第 5 回の目的は、Verification (Code Verification と Calculation Verification) を行うことで、計算結果の信頼性を判断できるようになることです。

### 2. 作業フォルダ (作業ディレクトリ) の準備

C ドライブの下に `msys64` フォルダの下に `home` フォルダがあります。そして、`home` フォルダの下にユーザ名のフォルダがあります。ユーザ名のフォルダの下に `lecture5` フォルダを作成してください。ユーザ名のフォルダの下に、連立一次方程式の計算で使ったライブラリが置いてある `lib` フォルダがあることを確認してください (図 2.1 参照)。



名前	更新日時	種類	サイズ
lecture5	2018/04/23 20:25	ファイル フォルダー	
lib	2018/04/23 19:46	ファイル フォルダー	
.bash_history	2018/04/23 20:34	BASH_HISTORY フ...	2 KB
.bash_logout	2016/07/19 14:04	BASH_LOGOUT フ...	1 KB
.bash_profile	2016/07/19 14:04	BASH_PROFILE ファ...	2 KB
.bashrc	2016/07/19 14:04	BASHRC ファイル	6 KB
.inputrc	2016/07/19 14:04	INPUTRC ファイル	4 KB
.profile	2016/07/19 14:04	PROFILE ファイル	2 KB

図 2.1 lecture5 フォルダと lib フォルダ

Window OS の場合, lib フォルダの中には, ライブラリ libopenblas.a が置いてあります. Mac OS の場合, lib フォルダの中にライブラリ liblapack.a, librefblas.a, libtmglib.a が置いてあります.

lecture5 フォルダの下に fea フォルダ, meshing フォルダ, mod フォルダを作成します (図 2.2 参照). 第 4 回で作成したファイル

- 節点モジュールプログラム mod\_nodes3d.f90
- 有限要素 (計算空間) モジュールプログラム mod\_localelement3d.90
- 有限要素 (物理空間) モジュールプログラム mod\_elements3d.f90
- 直方体メッシャーモジュールプログラム mod\_rectmesher3d.f90
- 要素剛性マトリックスモジュールプログラム mod\_elemstiffmat3d.f90
- 要素外力ベクトルモジュールプログラム mod\_elemexforcevec3d.90
- 有限要素法モジュールプログラム mod\_fem3d.f90

を mod フォルダ内に置いてください. 第 4 回で作成した meshing フォルダ内のファイル

- アプリケーションモジュールプログラム mod\_appli.f90
- メインプログラム main\_appli.f90
- Makefile
- 直方体メッシング用の計算パラメータファイル param\_meshing.dat

を meshing フォルダ内に置いてください. 第 4 回で作成した fea フォルダ内のファイル

- アプリケーションモジュールプログラム mod\_appli.f90
- メインプログラム main\_appli.f90
- Makefile

を fea フォルダ内に置いてください.

msys64 > home > ghashimoto > lecture5 >		
名前	更新日時	種類
fea	2018/04/23 20:32	ファイル フォルダ
meshing	2018/04/23 20:32	ファイル フォルダ
mod	2018/04/23 19:44	ファイル フォルダ

図 2.2 fea フォルダ, meshing フォルダ, mod フォルダ

MSYS2 の MinGW を起動させ, lecture5 ディレクトリへ移動します.

### 3. モジュール mod\_elemexforcevec3d の修正

図 3.1 に有限要素解析のクラス図とクラス同士の関連を示します.

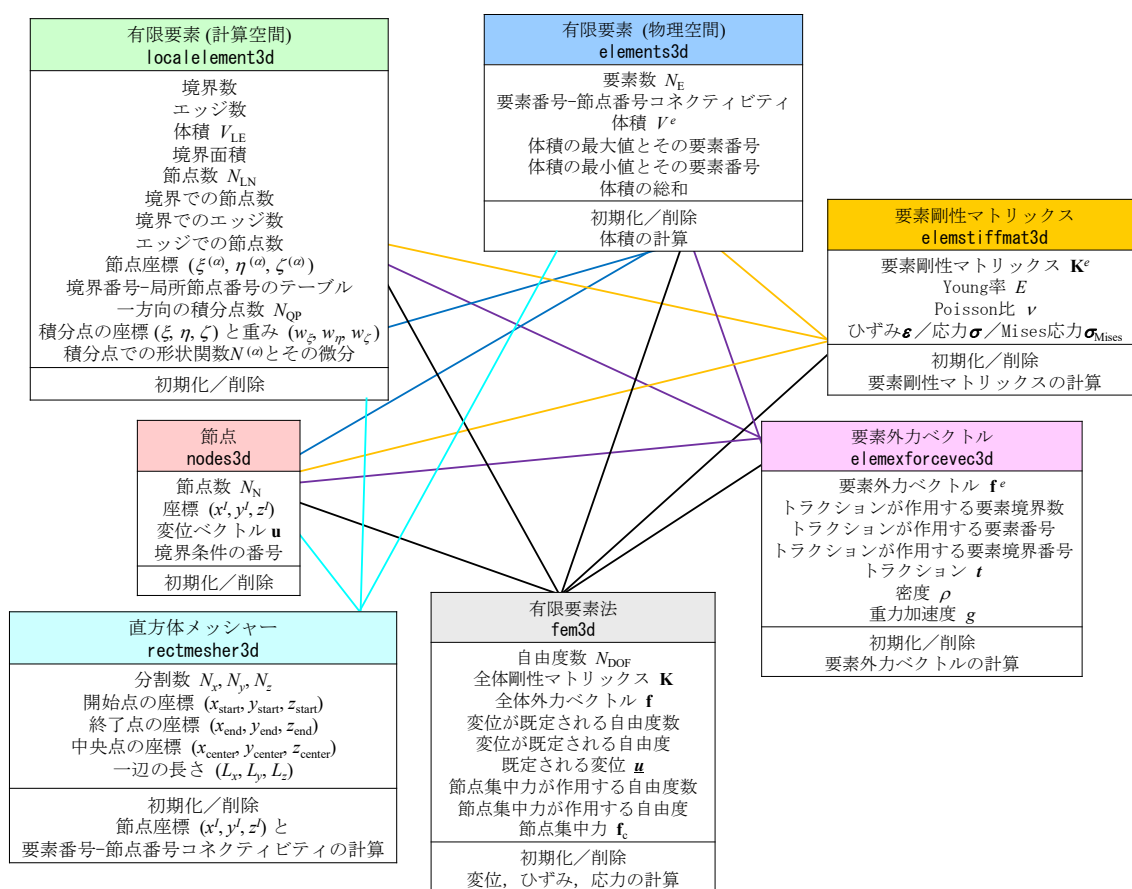


図 3.1 有限要素解析のクラス図とクラス同士の関連

mod フォルダ内の要素外力ベクトルモジュールプログラム mod\_elemexforcevec3d.f90 を修正してください (資料「第 5 回演習プログラム」のプログラム 1 参照). サブルーチン cal\_elemforcevec3d の要素外力ベクトル  $\mathbf{f}^e$  を計算するプログラムを以下に示します.

要素外力ベクトル efv3d%f(isize, ie)

efv3d%f = 0.0D0

$$\int_{\Gamma_i^e} \mathbf{N}^T \begin{pmatrix} t_x \\ t_y \\ t_z \end{pmatrix} d\Gamma = \int_{-1}^1 \int_{-1}^1 \mathbf{N}^T \begin{pmatrix} t_x \\ t_y \\ t_z \end{pmatrix} \left\{ \left( \frac{\partial x}{\partial \xi} \times \frac{\partial x}{\partial \eta} \right) \cdot \mathbf{n} \right\} d\xi d\eta$$

$$= \left( \int_{-1}^1 \int_{-1}^1 \mathbf{N}^T d\xi d\eta \right) \begin{pmatrix} t_x \\ t_y \\ t_z \end{pmatrix} \left\{ \left( \frac{\partial x}{\partial \xi} \times \frac{\partial x}{\partial \eta} \right) \cdot \mathbf{n} \right\}$$

DO ib = 1, efv3d%nelemboundaries Neumann 境界条件が与えられる要素境界番号のループ始め

!-----

ie = efv3d%table\_ie(ib) 要素番号

ma = efv3d%table\_ma(ib) 局所境界番号

DO naa = 1, le3d\_nnodes\_boundary 要素番号のループ始め

na = le3d\_table\_na(naa, ma) 局所節点番号

id = es3d\_connectivity(na, ie) 節点番号 (要素番号-節点番号コネクティビティの使用)

DO i = 1, 3 x, y, z 成分のループ始め

x\_local(i, naa) = ns3d\_x(i, id)  $(x^{(\alpha)}, y^{(\alpha)}, z^{(\alpha)}) \leftarrow (x^I, y^I, z^I)$

END DO x, y, z 成分のループ終わり

END DO

IF ( le3d\_nboundaries .EQ. 6 ) THEN 要素が六面体の場合 (境界の形状は四角形)

**a**

$$x_{31}(1) = x\_local(1, 3) - x\_local(1, 1)$$

$$x_{31}(2) = x\_local(2, 3) - x\_local(2, 1)$$

$$x_{31}(3) = x\_local(3, 3) - x\_local(3, 1)$$

$b$

$$x_{42}(1) = x\_local(1, 4) - x\_local(1, 2)$$

$$x_{42}(2) = x\_local(2, 4) - x\_local(2, 2)$$

$$x_{42}(3) = x\_local(3, 4) - x\_local(3, 2)$$

要素番号  $e$ , 局所境界番号  $m$  の要素境界の表面積  $S_m^e$ , 外向き単位法線ベクトル  $\mathbf{n}_m^e$

$$S_m^e \mathbf{n}_m^e = \frac{1}{2}(\mathbf{a} \times \mathbf{b})$$

$$area\_nx = 0.5D0 * (x_{31}(2) * x_{42}(3) - x_{42}(2) * x_{31}(3))$$

$$area\_ny = 0.5D0 * (x_{31}(3) * x_{42}(1) - x_{42}(3) * x_{31}(1))$$

$$area\_nz = 0.5D0 * (x_{31}(1) * x_{42}(2) - x_{42}(1) * x_{31}(2))$$

$S_m^e$

$$area = \text{DSQRT}(area\_nx * area\_nx + area\_ny * area\_ny + area\_nz * area\_nz)$$

2次元の Jacobian の平均値

$$\overline{\left\{ \left( \frac{\partial x}{\partial \xi} \times \frac{\partial x}{\partial \eta} \right) \cdot \mathbf{n} \right\}} = \frac{S_m^e}{4}$$

$$det\_j = 0.25D0 * area$$

IF ( le3d\_nnodes .EQ. 8 ) THEN 要素が 8 節点の場合

$$\int_{-1}^1 \int_{-1}^1 \mathbf{N}^T d\xi d\eta$$

$$n(1) = 1.0D0$$

$$n(2) = 1.0D0$$

$$n(3) = 1.0D0$$

$$n(4) = 1.0D0$$

END IF

END IF

DO naa = 1, le3d\_nnodes\_boundary 局所

na = le3d\_table\_na(naa, ma) 局所節点番号

isize = 3\*(na-1)+1 局所自由度番号

efv3d%f(isize, ie) &  
= efv3d%f(isize, ie)+n(naa)\*efv3d%t(1, ib)\*det\_j

isize = 3\*(na-1)+2 局所自由度番号

efv3d%f(isize, ie) &  
= efv3d%f(isize, ie)+n(naa)\*efv3d%t(2, ib)\*det\_j

isize = 3\*(na-1)+3 局所自由度番号

efv3d%f(isize, ie) &  
= efv3d%f(isize, ie)+n(naa)\*efv3d%t(3, ib)\*det\_j

END DO

END DO Neumann 境界条件が与えられる要素境界番号のループ始め

!-----

$$\int_{\Omega^e} \mathbf{N}^T \rho \begin{pmatrix} b_x \\ b_y \\ b_z \end{pmatrix} d\Omega = \int_{-1}^1 \int_{-1}^1 \int_{-1}^1 \mathbf{N}^T \rho \begin{pmatrix} b_x \\ b_y \\ b_z \end{pmatrix} J d\xi d\eta d\zeta$$

$$\approx \sum_{i=1}^{N_{QP}} \sum_{j=1}^{N_{QP}} \sum_{k=1}^{N_{QP}} w_i w_j w_k \left\{ \mathbf{N}^T \left( \frac{\partial x}{\partial \xi} \times \frac{\partial x}{\partial \eta} \right) \cdot \frac{\partial x}{\partial \zeta} \right\} \bigg|_{(\xi_i, \eta_j, \zeta_k)} \rho \begin{pmatrix} b_x \\ b_y \\ b_z \end{pmatrix}$$

DO ie = 1, es3d\_n 要素番号のループ始め

!-----

DO na = 1, le3d\_nnodes 局所節点番号のループ始め

```
id = es3d_connectivity(na, ie)  節点番号 (要素番号-節点番号コネクティビティの使用)
```

```
DO i = 1, 3  x, y, z 成分のループ始め
```

```
x_local(i, na) = ns3d_x(i, id)       $(x^{(\alpha)}, y^{(\alpha)}, z^{(\alpha)}) \leftarrow (x^I, y^I, z^I)$ 
```

```
END DO  x, y, z 成分のループ終わり
```

```
END DO  局所節点番号のループ終わり
```

```
!-----
```

```
DO ijk = 1, nqps_tot  積分点のループ始め
```

```
!-----
```

```
! Covariant basis vector
```

共変基底ベクトルの計算

$$\mathbf{g}_1 = \sum_{\alpha=1}^{N_{LN}} \frac{\partial N^{(\alpha)}}{\partial \xi} \mathbf{x}^{(\alpha)}, \quad \mathbf{g}_2 = \sum_{\alpha=1}^{N_{LN}} \frac{\partial N^{(\alpha)}}{\partial \eta} \mathbf{x}^{(\alpha)}, \quad \mathbf{g}_3 = \sum_{\alpha=1}^{N_{LN}} \frac{\partial N^{(\alpha)}}{\partial \zeta} \mathbf{x}^{(\alpha)}$$

```
DO i = 1, 3  x, y, z 成分のループ始め
```

```
g1(i) = 0.0D0
```

```
g2(i) = 0.0D0
```

```
g3(i) = 0.0D0
```

```
DO na = 1, le3d_nnodes  局所節点番号のループ始め
```

```
g1(i) = g1(i)+le3d_dndxi_qp(1, na, ijk)*x_local(i, na)
```

```
g2(i) = g2(i)+le3d_dndxi_qp(2, na, ijk)*x_local(i, na)
```

```
g3(i) = g3(i)+le3d_dndxi_qp(3, na, ijk)*x_local(i, na)
```

```
END DO  局所節点番号のループ終わり
```

```
END DO  x, y, z 成分のループ終わり
```

```

!-----

! Jacobian


$$J = \mathbf{g}_1 \cdot (\mathbf{g}_2 \times \mathbf{g}_3)$$


det_j = g1(1)*( g2(2)*g3(3)-g2(3)*g3(2) ) &
        +g1(2)*( g2(3)*g3(1)-g2(1)*g3(3) ) &
        +g1(3)*( g2(1)*g3(2)-g2(2)*g3(1) )

w_w_w_det_j                                     &
= le3d_w_qp(1, ijk)*le3d_w_qp(2, ijk)*le3d_w_qp(3, ijk) &
  *det_j

!-----

! N matrix


$$\mathbf{N} = \left( \mathbf{N}^{(1)} \dots \mathbf{N}^{(\alpha)} \dots \mathbf{N}^{(N_{LN})} \right)$$



$$\mathbf{N}^{(\alpha)} = \begin{pmatrix} N^{(\alpha)} & 0 & 0 \\ 0 & N^{(\alpha)} & 0 \\ 0 & 0 & N^{(\alpha)} \end{pmatrix}$$


nmat = 0.0D0

DO nb = 1, le3d_nnodes  局所節点番号のループ始め

  jsize1 = 3*(nb-1)+1  局所自由度番号
  jsize2 = 3*(nb-1)+2  局所自由度番号
  jsize3 = 3*(nb-1)+3  局所自由度番号

  nmat(1, jsize1) = le3d_n_qp(nb, ijk)
  nmat(2, jsize2) = le3d_n_qp(nb, ijk)
  nmat(3, jsize3) = le3d_n_qp(nb, ijk)

END DO  局所節点番号のループ終わり

!-----

```



重力加速度  $g$

$$\begin{pmatrix} b_x \\ b_y \\ b_z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ g \end{pmatrix}$$

bvec(1) = 0.0D0

bvec(2) = 0.0D0

bvec(3) = efv3d%g

!-----

DO isize = 1, 3\*le3d\_nnodes 局所自由度番号のループ始め

DO k = 1, 3  $x, y, z$  成分のループ始め

```
efv3d%f(isize, ie)          &
= efv3d%f(isize, ie)        &
+w_w_det_j                  &
*efv3d%rho(ie)*nmat(k, isize)*bvec(k)
```

END DO  $x, y, z$  成分のループ終わり

END DO 局所自由度番号のループ終わり

!-----

END DO 積分点のループ終わり

!-----

END DO 要素番号のループ終わり

七つの有限要素法の基本モジュール

- 有限要素法 (mod\_fem3d)
- 要素剛性マトリックス (mod\_elemstiffmat3d)
- 要素外力ベクトル (mod\_elemexforcevec3d)
- 物理空間 ( $x, y, z$ ) における有限要素 (mod\_elements3d)

- 計算空間 ( $\xi, \eta, \zeta$ ) における有限要素 (mod\_localelement3d)
- 節点 (mod\_nodes3d)
- 直方体メッシャー (mod\_rectmesher3d)

が完成しました。

## 4. 単純引張変形解析

### 4.1 解析モデルと境界条件

図 4.1 に単純引張変形の解析モデルと境界条件を示す。左側では、対称境界条件が与えられる。右側には、一定の応力

$$\sigma_{xx} = \frac{P}{H^2}$$

が与えられる。

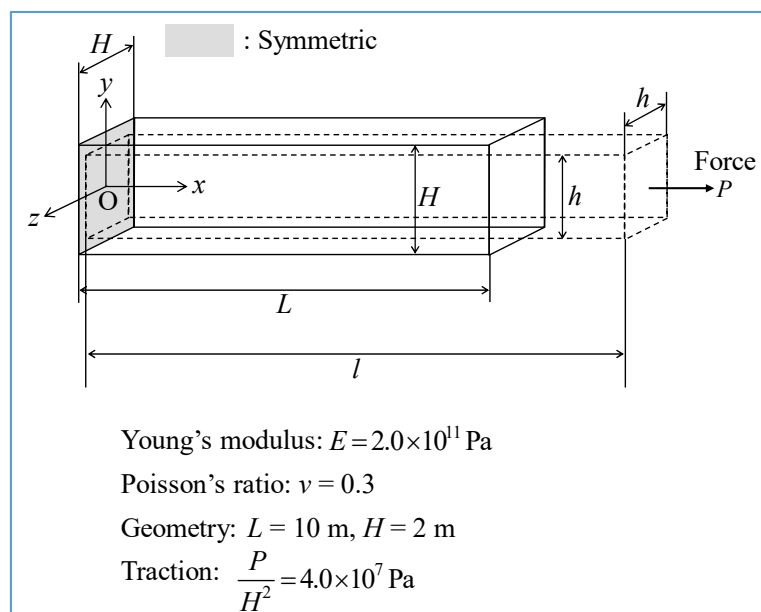


図 4.1 単純引張変形の解析モデルと境界条件

### 4.2 直方体メッシングプログラムのコンパイルと実行

meshing フォルダ内のアプリケーションモジュールプログラム mod\_appli.f90 を修正します (資料「第 5 回演習プログラム」のプログラム 2 参照)。

MinGW のターミナル画面で

```
$ cd
```

と入力して、「Enter」を押してください。

```
$ cd meshing
```

と入力して、「Enter」を押して、meshing ディレクトリへ移動してください。以下のコマンドを入力し、

```
$ make
```

「Enter」を押すと、コンパイルでき、実行形式ファイル meshing.exe が作成されます。直方体メッシング用の計算パラメータファイル param\_meshing.dat 内のパラメータを

```
1: !DIVISION_NUMBER 直方体一辺の分割数
2: 20, 2, 2
3: !START_POINT 直方体の座標の出発点 [m]
4: 0.0, -0.5, -0.5
5: !END_POINT 直方体の座標の終了点 [m]
6: 10.0, 0.5, 0.5
7: !PROBLEM 問題番号
8: 2
9: !YOUNG'S_MODULUS Young 率 E [Pa]
10: 2.0e11
11: !POISSON'S_RATIO Poisson 比 ν
12: 0.3
13: !DENSITY 密度 ρ [kg/m³]
14: 7.8e3
15: !GRAVITATIONAL_ACCELERATION 重力加速度 g [m/s²]
16: 0.0
17: !END データの終わり
```

のように設定してください。ターミナル画面に

```
$ ./meshing
```

と入力して、「Enter」を押して、処理を実行してください。meshing ディレクトリに mesh.dat ファイル、ic.dat ファイル、bc.dat ファイル、param\_fea.dat ファイル、mesh.inp ファイルが作成されていることを確認してください。mesh.dat ファイル、ic.dat ファイル、bc.dat ファイル、param\_fea.dat ファイルは、有限要素解析用の計算パラメータファイルです。ターミナル画面に

```
$ mv mesh.dat bc.dat ic.dat param_fea.dat ../fea
```

と入力して、「Enter」を押して、mesh.dat ファイル、ic.dat ファイル、bc.dat ファイル、

param\_fea.dat ファイルを fea ディレクトリへ移動させてください.

mesh.dat ファイルのデータを以下に示します. mesh.dat ファイルは, 解析メッシュに関する情報を含んでいます.

```

1: !NODE      節点データカード
           節点番号  $I$ , 座標 ( $x^I$ ,  $y^I$ ,  $z^I$ )
2:      1,    0.00000000E+00,  -0.50000000E+00,  -0.50000000E+00
3:      2,    0.50000000E+00,  -0.50000000E+00,  -0.50000000E+00
4:      3,    0.10000000E+01,  -0.50000000E+00,  -0.50000000E+00
           ...
189:     188,    0.95000000E+01,    0.50000000E+00,    0.50000000E+00
190:     189,    0.10000000E+02,    0.50000000E+00,    0.50000000E+00
191: !ELEMENT,  6,   8,   2      要素データカード, 境界数, 節点数, (一方向の) 積分点数
           要素番号  $e$ , 要素番号-節点番号コネクティビティ  $connectivity((\alpha), e)$ 
192:      1,      1,      2,      23,      22,      64,      65,      86,      85
193:      2,      2,      3,      24,      23,      65,      66,      87,      86
194:      3,      3,      4,      25,      24,      66,      67,      88,      87
           ...
270:     79,     103,     104,     125,     124,     166,     167,     188,     187
271:     80,     104,     105,     126,     125,     167,     168,     189,     188
272: !END      データの終わり

```

ic.dat ファイルのデータを以下に示します. ic.dat ファイルは, 変位の初期条件を含んでいます.

```

1: !DISPLACEMENT  節点番号  $I$ ,  $u_x^I$ ,  $u_y^I$ ,  $u_z^I$ 
2:      1,    0.00000000E+00,    0.00000000E+00,    0.00000000E+00
3:      2,    0.00000000E+00,    0.00000000E+00,    0.00000000E+00
4:      3,    0.00000000E+00,    0.00000000E+00,    0.00000000E+00
           ...
189:     188,    0.00000000E+00,    0.00000000E+00,    0.00000000E+00
190:     189,    0.00000000E+00,    0.00000000E+00,    0.00000000E+00
191: !END      データの終わり

```

bc.dat ファイルのデータを以下に示します. bc.dat ファイルは, 境界条件番号を含んでいます. 計算する節点ならば 0, 変位境界条件 (Dirichlet 境界条件) が与えられる節点ならば

1, トラクション境界条件 (Neumann 境界条件) が与えられる節点ならば 2 です.

```

1: !DISPLACEMENT  節点番号  $I$ ,  $u_x^I$  の境界条件番号,  $u_y^I$  の境界条件番号,  $u_z^I$  の境界条件番号
2:      1,      1,      0,      0
3:      2,      0,      0,      0
4:      3,      0,      0,      0
      ...
189:     188,      0,      0,      0
190:     189,      0,      0,      0
191: !END  データの終わり

```

有限要素解析用の計算パラメータファイル param\_fea.dat のデータを以下に示します.

```

1: !ANALYSIS_TYPE  解析タイプ
2: STATIC_ANALYSIS
3: !YOUNG' S_MODULUS  Young 率  $E$  [Pa]
4:      0. 20000000E+12
5: !POISSON' S_RATIO  Poisson 比  $\nu$ 
6:      0. 30000000E+00
7: !DENSITY  密度  $\rho$  [kg/m3]
8:      0. 78000000E+04
9: !GRAVITATIONAL_ACCELERATION  重力加速度  $g$  [m/s2]
10:      0. 00000000E+00
11: !F_LOADED
12: !TRACTION
      トラクションが与えられる要素境界番号, 要素番号, 局所境界番号, トラクションベクトル
13:      1,      20,      4,  0. 40000000E+08,  0. 00000000E+00,  0. 00000000E+00
14:      2,      40,      4,  0. 40000000E+08,  0. 00000000E+00,  0. 00000000E+00
15:      3,      60,      4,  0. 40000000E+08,  0. 00000000E+00,  0. 00000000E+00
16:      4,      80,      4,  0. 40000000E+08,  0. 00000000E+00,  0. 00000000E+00
17: !END  データの終わり

```

#### 4.3 有限要素解析プログラムのコンパイルと実行

fea フォルダ内のアプリケーションモジュールプログラム `mod_appli.f90` を修正します (資料「第 5 回演習プログラム」のプログラム 3 参照)。これで、本講義の有限要素解析用のアプリケーションモジュールプログラム `mod_appli.f90` は完成です。

MinGW のターミナル画面で

```
$ cd
```

と入力して、「Enter」を押してください。

```
$ cd fea
```

と入力して、「Enter」を押して、`fea` ディレクトリへ移動してください。以下のコマンドを入力し、

```
$ make
```

「Enter」を押すと、コンパイルでき、実行形式ファイル `fea.exe` が作成されます。ターミナル画面に

```
$ ./fea
```

と入力して、「Enter」を押して、処理を実行してください。`result.inp` ファイルが出力されます。ParaView を用いて可視化すると、図 4.2 のように、単純引張変形の様子が表示されます。

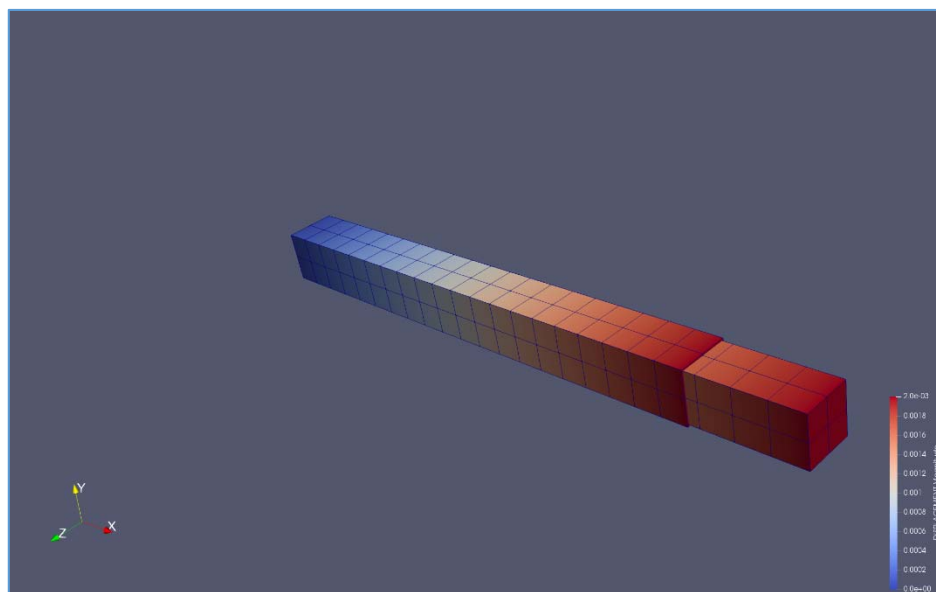


図 4.2 単純引張変形の様子

#### 4.4 計算で得られた近似値と厳密値の比較

構成方程式は

$$\begin{aligned}\sigma_{xx} &= \lambda(\varepsilon_{xx} + \varepsilon_{yy} + \varepsilon_{zz}) + 2\mu\varepsilon_{xx} = \frac{P}{H^2} \\ \sigma_{yy} &= \lambda(\varepsilon_{xx} + \varepsilon_{yy} + \varepsilon_{zz}) + 2\mu\varepsilon_{yy} = 0 \\ \sigma_{zz} &= \lambda(\varepsilon_{xx} + \varepsilon_{yy} + \varepsilon_{zz}) + 2\mu\varepsilon_{zz} = 0 \\ \sigma_{xy} &= \sigma_{yz} = \sigma_{zx} = 0\end{aligned}$$

です。また、微小ひずみは

$$\begin{aligned}\varepsilon_{xx} &= \frac{\partial u_x}{\partial x} = \frac{l-L}{L} \\ \varepsilon_{yy} &= \frac{\partial u_y}{\partial y} = \frac{h-H}{H} \\ \varepsilon_{zz} &= \frac{\partial u_z}{\partial z} = \frac{h-H}{H} \\ \varepsilon_{xy} &= \varepsilon_{yz} = \varepsilon_{zx} = 0\end{aligned}$$

です。よって、

$$\begin{cases} (\lambda + 2\mu)\frac{l-L}{L} + 2\lambda\frac{h-H}{H} = \frac{P}{H^2} \\ \lambda\frac{l-L}{L} + (\lambda + 2\mu)\frac{h-H}{H} + \lambda\frac{h-H}{H} = 0 \end{cases}$$

$$\begin{cases} (\lambda + 2\mu)a + 2\lambda b = c \\ \lambda a + 2(\lambda + \mu)b = 0 \end{cases}$$

が得られます。ただし、

$$a = \frac{l-L}{L}, \quad b = \frac{h-H}{H}, \quad c = \frac{P}{H^2}$$

です。式変形

$$\begin{aligned}a &= -\frac{2(\lambda + \mu)}{\lambda}b \\ &= -\frac{\frac{2E\nu}{(1+\nu)(1-2\nu)} + \frac{2E}{2(1+\nu)}}{\frac{E\nu}{(1+\nu)(1-2\nu)}}b \\ &= -\frac{1}{\nu}b\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 c &= (\lambda + 2\mu - 2\lambda\nu)a \\
 &= \left\{ \frac{E\nu}{(1+\nu)(1-2\nu)} + \frac{2E}{2(1+\nu)} - \frac{2E\nu^2}{(1+\nu)(1-2\nu)} \right\} a \\
 &= \left\{ \frac{E\nu}{(1+\nu)(1-2\nu)} + \frac{E(1-2\nu)}{(1+\nu)(1-2\nu)} - \frac{2E\nu^2}{(1+\nu)(1-2\nu)} \right\} a \\
 &= E \frac{1-\nu-2\nu^2}{(1+\nu)(1-2\nu)} a \\
 &= Ea
 \end{aligned}$$

を行うと,

$$a = \frac{c}{E}, \quad b = -\frac{\nu}{E}c$$

となります. よって,

$$l-L = \frac{PL}{EH^2}, \quad \frac{h-H}{2} = -\frac{\nu}{2E} \frac{P}{H}$$

が得られます. したがって, 厳密値は

$$\begin{aligned}
 l-L &= \frac{PL}{EH^2} \\
 &= \frac{(4.0 \times 10^7)(10.0)}{(2.0 \times 10^{11})} \\
 &= 2.0 \times 10^{-3} \text{ m} \\
 \frac{h-H}{2} &= -\frac{0.3}{2(2.0 \times 10^{11})} \frac{(4.0 \times 10^7)}{(1.0)} \\
 &= -3.0 \times 10^{-5} \text{ m}
 \end{aligned}$$

となります. 計算結果と厳密値を比較してください.

## 5. 単純せん断変形解析

### 5.1 解析モデルと境界条件

図 5.1 に単純せん断変形の解析モデルと境界条件を示す.



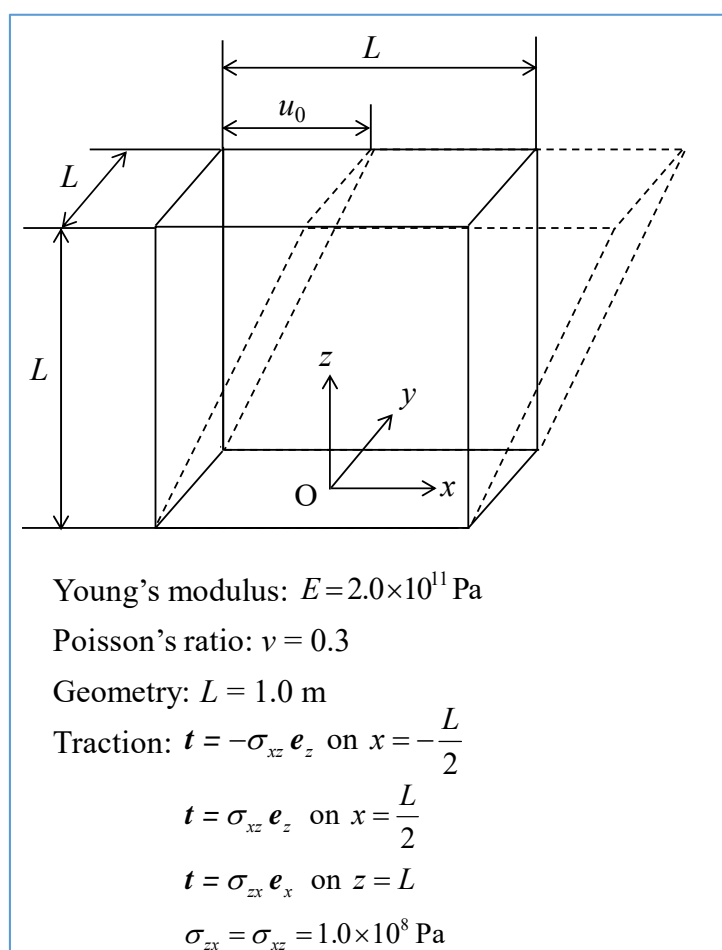


図 5.1 単純せん断変形の解析モデルと境界条件

## 5.2 直方体メッシングプログラムのコンパイルと実行

meshing フォルダ内のアプリケーションモジュールプログラム mod\_appli.f90 を修正します (資料「第 5 回演習プログラム」のプログラム 4 参照).

MinGW のターミナル画面で

```
$ cd
```

と入力して, 「Enter」を押してください.

```
$ cd meshing
```

と入力して, 「Enter」を押して, meshing ディレクトリへ移動してください. 以下のコマンドを入力し,

```
$ make
```

「Enter」を押すと, コンパイルでき, 実行形式ファイル meshing.exe が作成されます. 直方体メッシング用の計算パラメータファイル param\_meshing.dat 内のパラメータを

```

1: !DIVISION_NUMBER 直方体一辺の分割数
2: 10, 10, 10
3: !START_POINT 直方体の座標の出発点 [m]
4: -0.5, -0.5, 0.0
5: !END_POINT 直方体の座標の終了点 [m]
6: 0.5, 0.5, 1.0
7: !PROBLEM 問題番号
8: 3
9: !YOUNG'S_MODULUS Young 率  $E$  [Pa]
10: 2.0e11
11: !POISSON'S_RATIO Poisson 比  $\nu$ 
12: 0.3
13: !DENSITY 密度  $\rho$  [kg/m3]
14: 7.8e3
15: !GRAVITATIONAL_ACCELERATION 重力加速度  $g$  [m/s2]
16: 0.0
17: !END データの終わり

```

のように設定してください。ターミナル画面に

```
$ ./meshing
```

と入力して、「Enter」を押して、処理を実行してください。meshing ディレクトリに mesh.dat ファイル、ic.dat ファイル、bc.dat ファイル、param\_fea.dat ファイル、mesh.inp ファイルが作成されていることを確認してください。mesh.dat ファイル、ic.dat ファイル、bc.dat ファイル、param\_fea.dat ファイルは、有限要素解析プログラムの入力データです。ターミナル画面に

```
$ mv mesh.dat bc.dat ic.dat param_fea.dat ../fea
```

と入力して、「Enter」を押して、mesh.dat ファイル、ic.dat ファイル、bc.dat ファイル、param\_fea.dat ファイルを fea ディレクトリへ移動させてください。

mesh.dat ファイルのデータを以下に示します。mesh.dat ファイルは、解析メッシュに関する情報を含んでいます。

```

1: !NODE 節点データカード
   節点番号  $I$ , 座標 ( $x^I$ ,  $y^I$ ,  $z^I$ )
2: 1, -0.50000000E+00, -0.50000000E+00, 0.00000000E+00
3: 2, -0.40000000E+00, -0.50000000E+00, 0.00000000E+00
4: 3, -0.30000000E+00, -0.50000000E+00, 0.00000000E+00

```

```

...
1331: 1330, 0.40000000E+00, 0.50000000E+00, 0.10000000E+01
1332: 1331, 0.50000000E+00, 0.50000000E+00, 0.10000000E+01
1333: !ELEMENT, 6, 8, 2 要素データカード, 境界数, 節点数, (一方向の) 積分点数
      要素番号  $e$ , 要素番号-節点番号コネクティビティ  $connectivity(\alpha, e)$ 
1334: 1, 1, 2, 13, 12, 122, 123, 134, 133
1335: 2, 2, 3, 14, 13, 123, 124, 135, 134
1336: 3, 3, 4, 15, 14, 124, 125, 136, 135
...
2332: 999, 1197, 1198, 1209, 1208, 1318, 1319, 1330, 1329
2333: 1000, 1198, 1199, 1210, 1209, 1319, 1320, 1331, 1330
2334: !END データの終わり

```

ic.dat ファイルのデータを以下に示します. ic.dat ファイルは, 変位の初期条件を含んでいます.

```

1: !DISPLACEMENT 節点番号  $I$ ,  $u_x^I$ ,  $u_y^I$ ,  $u_z^I$ 
2: 1, 0.00000000E+00, 0.00000000E+00, 0.00000000E+00
3: 2, 0.00000000E+00, 0.00000000E+00, 0.00000000E+00
4: 3, 0.00000000E+00, 0.00000000E+00, 0.00000000E+00
...
1331: 1330, 0.00000000E+00, 0.00000000E+00, 0.00000000E+00
1332: 1331, 0.00000000E+00, 0.00000000E+00, 0.00000000E+00
1333: !END データの終わり

```

bc.dat ファイルのデータを以下に示します. bc.dat ファイルは, 境界条件番号を含んでいます. 計算する節点ならば 0, 変位境界条件 (Dirichlet 境界条件) が与えられる節点ならば 1, トラクション境界条件 (Neumann 境界条件) が与えられる節点ならば 2 です.

```

1: !DISPLACEMENT 節点番号  $I$ ,  $u_x^I$  の境界条件番号,  $u_y^I$  の境界条件番号,  $u_z^I$  の境界条件番号
2: 1, 1, 1, 1
3: 2, 1, 1, 1
4: 3, 1, 1, 1
...
1331: 1330, 0, 0, 0
1332: 1331, 0, 0, 0

```

```
1333: !END データの終わり
```

有限要素解析用の計算パラメータファイル param\_fea.dat のデータを以下に示します。

```
1: !ANALYSIS_TYPE 解析タイプ
2: !STATIC_ANALYSIS
3: !YOUNG'S_MODULUS Young 率  $E$  [Pa]
4: 0.20000000E+12
5: !POISSON'S_RATIO Poisson 比  $\nu$ 
6: 0.30000000E+00
7: !DENSITY 密度  $\rho$  [kg/m3]
8: 0.78000000E+04
9: !GRAVITATIONAL_ACCELERATION 重力加速度  $g$  [m/s2]
10: 0.00000000E+00
11: !F_LOADED
12: !TRACTION
    トラクションが与えられる要素境界番号, 要素番号, 局所境界番号, トラクションベクトル
13: 1, 1, 6, 0.00000000E+00, 0.00000000E+00, -0.10000000E+09
14: 2, 10, 4, 0.00000000E+00, 0.00000000E+00, 0.10000000E+09
15: 3, 11, 6, 0.00000000E+00, 0.00000000E+00, -0.10000000E+09
    ...
311: 299, 1000, 2, 0.10000000E+09, 0.00000000E+00, 0.00000000E+00
312: 300, 1000, 4, 0.00000000E+00, 0.00000000E+00, 0.10000000E+09
313: !END データの終わり
```

### 5.3 有限要素解析プログラムのコンパイルと実行

MinGW のターミナル画面で

```
$ cd
```

と入力して, 「Enter」を押してください。

```
$ cd fea
```

と入力して, 「Enter」を押して, fea ディレクトリへ移動してください。ターミナル画面に

```
$ ./fea
```

と入力して, 「Enter」を押して, 処理を実行してください。result.inp ファイルが出力されます。ParaView を用いて可視化すると, 図 5.2 のように, 単純せん断変形の様子が表示されます。

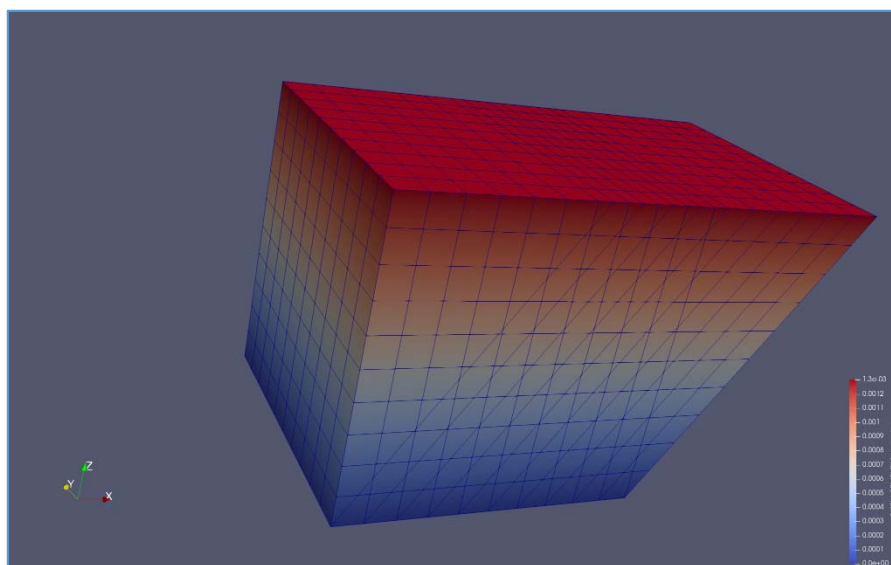


図 5.2 単純せん断変形の様子

#### 5.4 計算で得られた近似値と厳密値の比較

図 5.1 に示されるような変位  $u_0 > 0$  のせん断変形が生じるとします。このとき，構成方程式は

$$\begin{aligned}\sigma_{xx} &= \sigma_{yy} = \sigma_{zz} = \sigma_{xy} = \sigma_{yz} = 0 \\ \sigma_{zx} &= 2\mu\epsilon_{zx}\end{aligned}$$

です。また，微小ひずみは

$$\begin{aligned}\epsilon_{xx} &= \epsilon_{yy} = \epsilon_{zz} = \epsilon_{xy} = \epsilon_{yz} = 0 \\ \epsilon_{zx} &= \frac{1}{2} \left( \frac{\partial u_x}{\partial z} + \frac{\partial u_z}{\partial x} \right) = \frac{1}{2} \frac{u_0}{L}\end{aligned}$$

です。よって，

$$\begin{aligned}\sigma_{zx} &= 2\mu\epsilon_{zx} \\ &= \mu \frac{u_0}{L}\end{aligned}$$

が得られます。  $x = -L/2$  上で

$$\begin{aligned}\mathbf{t} &= -\mathbf{e}_x \cdot \boldsymbol{\sigma} \\ &= -\sigma_{xz} \mathbf{e}_z \\ &= -\mu \frac{u_0}{L} \mathbf{e}_z\end{aligned}$$

を境界条件として与えて，  $x = L/2$  上で

$$\begin{aligned} \boldsymbol{t} &= \boldsymbol{e}_x \cdot \boldsymbol{\sigma} \\ &= \sigma_{xz} \boldsymbol{e}_z \\ &= \mu \frac{u_0}{L} \boldsymbol{e}_z \end{aligned}$$

で境界条件として与えて,  $z = L$  上で

$$\begin{aligned} \boldsymbol{t} &= \boldsymbol{e}_z \cdot \boldsymbol{\sigma} \\ &= \sigma_{zx} \boldsymbol{e}_x \\ &= \mu \frac{u_0}{L} \boldsymbol{e}_x \end{aligned}$$

を境界条件として与えれば, このような変形が生じることになります. 境界条件として,

$$\sigma_{zx} = \sigma_{xz} = 1.0 \times 10^8 \text{ Pa}$$

を与えると,

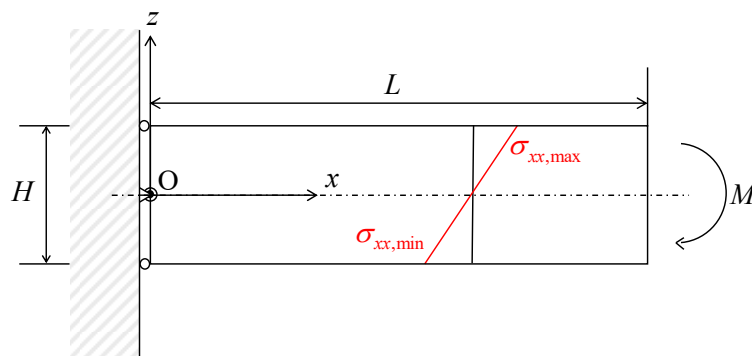
$$\begin{aligned} \mu &= \frac{E}{2(1+\nu)} \\ &= \frac{(2.0 \times 10^{11})}{2(1+0.3)} \text{ Pa} \\ u_0 &= \frac{\sigma_{zx} L}{\mu} \\ &= \frac{(1.0 \times 10^8)(1.0)}{\frac{(2.0 \times 10^{11})}{2(1+0.3)}} \\ &= 1.3 \times 10^{-3} \text{ m} \end{aligned}$$

となります. 計算結果と厳密値を比較してください.

## 6. 単純支持梁の曲げ変形解析

### 6.1 解析モデルと境界条件

図 6.1 に単純支持梁の解析モデルと境界条件を示す. 右側には曲げモーメント  $M$  が作用する.



Young's modulus:  $E = 200,000 \text{ MPa}$

Poisson's ratio:  $\nu = 0.0$

Geometry:  $L = 100 \text{ mm}$ ,  $H = 10 \text{ mm}$ ,  $W = 10 \text{ mm}$

Bending stress:  $\sigma_{xx,\max} = 60.0 \text{ MPa}$ ,  $\sigma_{xx,\min} = -60.0 \text{ MPa}$

図 5.1 単純支持梁の解析モデルと境界条件

## 6.2 直方体メッシングプログラムのコンパイルと実行

meshing フォルダ内のアプリケーションモジュールプログラム mod\_appli.f90 を修正します (資料「第 5 回演習プログラム」のプログラム 5 参照)。

MinGW のターミナル画面で

```
$ cd
```

と入力して、「Enter」を押してください。

```
$ cd meshing
```

と入力して、「Enter」を押して、meshing ディレクトリへ移動してください。以下のコマンドを入力し、

```
$ make
```

「Enter」を押すと、コンパイルでき、実行形式ファイル meshing.exe が作成されます。直方体メッシング用の計算パラメータファイル param\_meshing.dat 内のパラメータを

```
1: !DIVISION_NUMBER 直方体一辺の分割数
2: 100, 2, 2
3: !START_POINT 直方体の座標の出発点 [mm]
4: 0.0, -5.0, -5.0
5: !END_POINT 直方体の座標の終了点 [mm]
6: 100.0, 5.0, 5.0
7: !PROBLEM 問題番号
```

```

8: 4
9: !YOUNG' S_MODULUS  Young 率  $E$  [Pa]
10: 2.0E5
11: !POISSON' S_RATIO  Poisson 比  $\nu$ 
12: 0.0
13: !DENSITY  密度  $\rho$  [ton/mm3]
14: 1.0E-9
15: !GRAVITATIONAL_ACCELERATION  重力加速度  $g$  [mm/s2]
16: 0.0
17: !END  データの終わり

```

のように設定してください。ターミナル画面に

```
$ ./meshing
```

と入力して、「Enter」を押して、処理を実行してください。meshing ディレクトリに mesh.dat ファイル、ic.dat ファイル、bc.dat ファイル、param\_fea.dat ファイル、mesh.inp ファイルが作成されていることを確認してください。mesh.dat ファイル、ic.dat ファイル、bc.dat ファイル、param\_fea.dat ファイルは、有限要素解析プログラムの入力データです。ターミナル画面に

```
$ mv mesh.dat bc.dat ic.dat param_fea.dat ../fea
```

と入力して、「Enter」を押して、mesh.dat ファイル、ic.dat ファイル、bc.dat ファイル、param\_fea.dat ファイルを fea ディレクトリへ移動させてください。

mesh.dat ファイルのデータを以下に示します。mesh.dat ファイルは、解析メッシュに関する情報を含んでいます。

```

1: !NODE  節点データカード
      節点番号  $I$ , 座標  $(x^I, y^I, z^I)$ 
2:      1,  0.0000000E+00, -0.5000000E+01, -0.5000000E+01
3:      2,  0.1000000E+01, -0.5000000E+01, -0.5000000E+01
4:      3,  0.2000000E+01, -0.5000000E+01, -0.5000000E+01
      ...
909:     908,  0.9900000E+02,  0.5000000E+01,  0.5000000E+01
910:     909,  0.1000000E+03,  0.5000000E+01,  0.5000000E+01
911: !ELEMENT,  6,  8,  2  要素データカード, 境界数, 節点数, (一方向の) 積分点数
      要素番号  $e$ , 要素番号-節点番号コネクティビティ  $connectivity(\alpha, e)$ 
912:      1,      1,      2,    103,    102,    304,    305,    406,    405
913:      2,      2,      3,    104,    103,    305,    306,    407,    406

```



```

914:      3,      3,      4,      105,      104,      306,      307,      408,      407
      ...
1310:     399,     503,     504,     605,     604,     806,     807,     908,     907
1311:     400,     504,     505,     606,     605,     807,     808,     909,     908
1312: !END   データの終わり

```

ic.dat ファイルのデータを以下に示します. ic.dat ファイルは, 変位の初期条件を含んでいます.

```

1: !DISPLACEMENT   節点番号  $I$ ,  $u_x^I$ ,  $u_y^I$ ,  $u_z^I$ 
2:      1,      0.00000000E+00,      0.00000000E+00,      0.00000000E+00
3:      2,      0.00000000E+00,      0.00000000E+00,      0.00000000E+00
4:      3,      0.00000000E+00,      0.00000000E+00,      0.00000000E+00
      ...
909:     908,      0.00000000E+00,      0.00000000E+00,      0.00000000E+00
910:     909,      0.00000000E+00,      0.00000000E+00,      0.00000000E+00
911: !END   データの終わり

```

bc.dat ファイルのデータを以下に示します. bc.dat ファイルは, 境界条件番号を含んでいます. 計算する節点ならば 0, 変位境界条件 (Dirichlet 境界条件) が与えられる節点ならば 1, トラクション境界条件 (Neumann 境界条件) が与えられる節点ならば 2 です.

```

!DISPLACEMENT   節点番号  $I$ ,  $u_x^I$  の境界条件番号,  $u_y^I$  の境界条件番号,  $u_z^I$  の境界条件番号
      1,      1,      0,      0
      2,      0,      0,      0
      3,      0,      0,      0
      ...
     908,      0,      0,      0
     909,      0,      0,      0
!END   データの終わり

```

有限要素解析用の計算パラメータファイル param\_fea.dat のデータを以下に示します.

```

1: !ANALYSIS_TYPE   解析タイプ
2: STATIC_ANALYSIS
3: !YOUNG' S_MODULUS   Young 率  $E$  [MPa]

```

```

4: 0.20000000E+06
5: !POISSON' S_RATIO Poisson 比  $\nu$ 
6: 0.00000000E+00
7: !DENSITY 密度  $\rho$  [ton/mm3]
8: 0.10000000E-08
9: !GRAVITATIONAL_ACCELERATION 重力加速度  $g$  [mm/s2]
10: 0.00000000E+00
11: !F_LOADED
    節点集中荷重が与えられる節点番号, 節点集中荷重ベクトル
12: 101, -0.25000000E+03, 0.00000000E+00, 0.00000000E+00
13: 202, -0.50000000E+03, 0.00000000E+00, 0.00000000E+00
14: 303, -0.25000000E+03, 0.00000000E+00, 0.00000000E+00
15: 404, 0.00000000E+00, 0.00000000E+00, 0.00000000E+00
16: 505, 0.00000000E+00, 0.00000000E+00, 0.00000000E+00
17: 606, 0.00000000E+00, 0.00000000E+00, 0.00000000E+00
18: 707, 0.25000000E+03, 0.00000000E+00, 0.00000000E+00
19: 808, 0.50000000E+03, 0.00000000E+00, 0.00000000E+00
20: 909, 0.25000000E+03, 0.00000000E+00, 0.00000000E+00
21: !TRACTION
22: !END データの終わり
    
```

### 6.3 有限要素解析プログラムのコンパイルと実行

MinGW のターミナル画面で

```
$ cd
```

と入力して, 「Enter」を押してください.

```
$ cd fea
```

と入力して, 「Enter」を押して, fea ディレクトリへ移動してください. ターミナル画面に

```
$ ./fea
```

と入力して, 「Enter」を押して, 処理を実行してください. result.inp ファイルが出力されます. ParaView を用いて可視化すると, 図 6.2 のように, 曲げ変形の様子が表示されます.

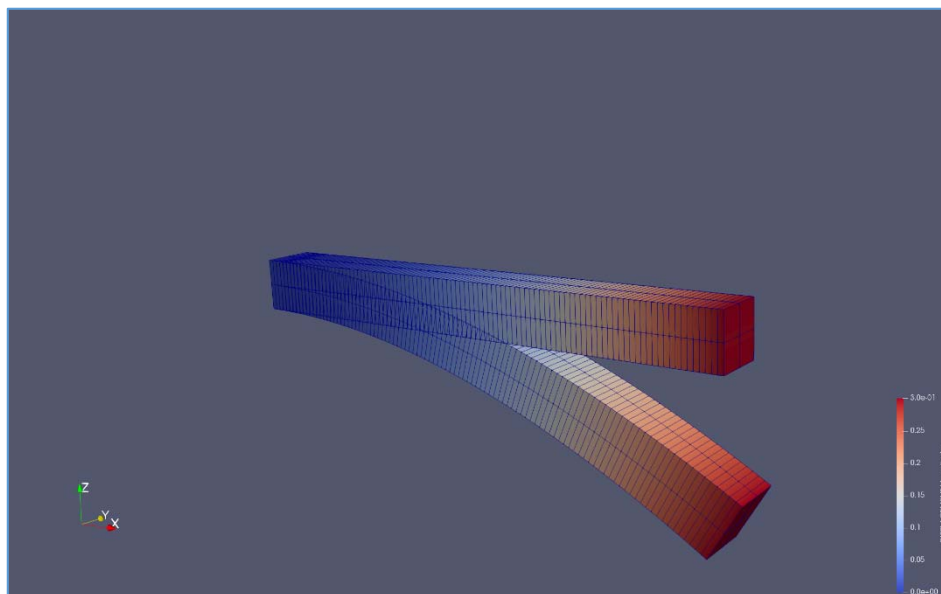


図 6.2 単純支持梁の曲げ変形の様子

#### 6.4 計算で得られた近似値と厳密値の比較

微小変形を仮定すると，変位成分  $u_z(x)$  は

$$\frac{d^2 u_z}{dx^2} = \frac{M}{EI}$$

$$\text{境界条件: } u_z(0) = 0, \quad \left. \frac{du_z}{dz} \right|_{x=0} = 0$$

より求められます．ただし， $M < 0$  は曲げモーメント， $I$  は断面 2 次モーメントである．よって，

$$u_z(x) = \frac{M}{2EI} x^2$$

です．曲げ応力は

$$\sigma_{xx} = -\frac{M}{I} z$$

となり，

$$\begin{aligned} \frac{M}{I} &= -\frac{\sigma_{xx}}{z} \\ &= -\frac{(60.0)}{(5.0)} \\ &= -12.0 \text{ MPa/mm} \end{aligned}$$

となります.

$$\begin{aligned}u_z(x) &= -\frac{(12.0)}{2(2.0 \times 10^5)} x^2 \\ &= -(3.0 \times 10^{-5}) x^2 \quad [\text{mm}]\end{aligned}$$

が得られます. 計算結果と厳密値を比較してください.

## 7. おわりに

第 5 回では, 単純引張変形, 単純せん断変形, 単純支持梁の曲げ変形を解析し, 計算結果と厳密解を比較しました. 計算結果の信頼性を判断するため, Verification (Code Verification と Calculation Verification) を行いました. 何か質問がありましたら, 橋本 (メールアドレス: [ghashimoto@k.u-tokyo.ac.jp](mailto:ghashimoto@k.u-tokyo.ac.jp)) に連絡してください.

## 宿題

- (1) 単純引張変形や単純せん断変形の有限要素解析において,
  - ・荷重  $P$  を 2 倍にする場合 (単純引張変形のみ)
  - ・Young 率を 2 倍にする場合
  - ・Poisson 比を 0.0 にする場合どのような計算結果が得られるかを調べてください.
- (2) 単純支持梁の曲げ変形において, meshing フォルダ内にある直方体メッシング用の計算パラメータファイル param\_meshing.dat の  $x$  方向分割数を 5, 10, 50, 100, 500, 1000 と変更した場合, 計算で得られた近似値と厳密値を比較してください.